

マスターズを彩るレジェンドたち(13)

夏休みに入る8月。本誌の表紙は9月号だが、暦の上では葉月(8月)。7日は既に立秋だ。この日を境に暑さがゆっくりと下り坂になり、23日の処暑になると秋の気配が感じられるようになるとはいえ、まだまだ暑さは続く。東京での五輪・パラリンピックはコロナ禍のなか、熱い闘いを繰り広げている。マスターズの方は相変わらず静か。今月もマスターズのページは例のレジェンドたちの活躍を紹介する。

写真／鈴木郁子さん

鈴木郁子さん(84歳・北海道)
過去に輝いたレジェンド

北の大地の鈴木郁子さんの名前を耳にしないようになって、随分と時間が経つ。生まれも育ちも北海道の“道産子”で、学生時代は書道部だった鈴木さんがマスターズ陸上の仲間に入ったのは55歳のとき。以後マスターズが鈴木さんの活躍の場となる。

鈴木さんが活躍した舞台は国内だけにとどまらず、別掲のように世界マスターズ陸上やアジアマスターズ陸上などでも好成績を挙げている。世界マスターズの初舞台は日本開催となった宮崎大会に56歳で参加した。このときはマラソンに絞り、17位の世界大会デビューとなったが、次第に上位へ。

アジアマスターズ陸上や国内の国際ゴールドマスターズ陸上に至っては、圧倒的に1位が多い。先述の通り学生時代に腕を磨いた書道は、のちに書道塾を開くまでに。また社会人になってからは弓道式段の腕前も上げた。このほか、修学旅行の生徒さんのスキー指導(弍級)なども行う。

このように何でもこなした鈴木さんは、マスターズ陸上でも400mから中・長距離、2000m障害にまで挑戦した。スパイクを履いたのはマスターズ入会1年後の56歳。全日本マスターズ陸上に初参加したのは1997年の第18回大分大会から。W60・800mと1500mで優勝し、特に800mでは2分56秒45の日本新だったので、報道陣から追っ掛け回されて驚いたことも思い出の一つと語る。

その後は全日本マスターズ陸上に何年も続けて出場。それより前の1994年3月に神戸市で開かれた第4回世界ベテランズロード明石大橋大会にもエントリーしたほか、スボレク祭やねりんピックにも積極的に参加した。

マスターズ陸上を行うにあたって、まずびっくりしたのは、2002年の9月、初めて東京・国立競技場に足を踏み入れ、400mを走ったときに1分21秒81の日本新を出したことだ。

“走る”ことは学生のときにはしていない。ただ「健康のため」と40歳から子どもと一緒に走り始め、マスターズ陸上に入る前の40～54歳まで北海道マラソンをはじめ、ハーフマラソンの大会に参加していた。北海道マラソンは60歳のときに「4時間以内で」と決めていたが、達成できたのを機に幕を下ろした。

マラソンのベストは3時間39分33秒。ハーフマラソンは1時間40分27秒だった。以後はマスターズ陸上の種目に絞って記録を目指すようになった。マスターズ陸上の楽しさは「仲間が増え、会話が弾む」ことや、スパイクを履いて走ることによって、記録がよくなる喜びだと話す。

既に長女、長男、次女の3人のお子さんは独立しており、元気だったご主人は10年ほど前に亡くなった。鈴木さんもW80クラスの80歳を迎えた頃から足に痛みが出て、次第に大会から遠ざかるようになった。現在残っている日本記録はW70クラスとW75クラスの2000mSCと、W75の4×100mR(2走)の三つだけ。



2002年アジアマスターズ大連大会において、W65クラスの400m、800m、1500m、5000mの4種目で4冠を成し遂げた鈴木郁子さん

海外のマスターズでの思い出は、数多いなか、絞るとすればブラジルでの第20回世界マスターズ陸上と、中国の大連での第12回アジアマスターズ陸上になるだろう。

ブラジルへは成田からボルトアレグレまで23時間30分かかった。長旅だった。時期は2013年10月13日から30日までの18日間。陸上は10月16日から27日まで。鈴木さんは到着した日からホテルへ入ると、朝食前にホテルの階段200段を上り下りして脚力を鍛えた。

ところが、1週間ほどして鈴木さんの右足の親指の付け根がはれ上がり、ズキズキと痛み出した。その後、投てきの嘉成俱子さん(2020年8月号のマスターズを彩るレジェンドたち(3)に掲載)に相談して、手首に巻く10cmほどのテープを右足に巻いた。左足の親指の2倍ほどにはれ上がった右足指の痛みが薄れたころ、テープをしたまま10月26日からのレースに出場した。

結果は400mが銅、800mと1500m、

4×400mRは銀、2000mSCに金と5種目で健闘。中でも2000mSCの表彰で君が代を聞いたときには感激した、という。

一方、アジアマスターズの大連大会は、金州陸上競技場で2002年9月15日から21日まで7日間の日程で行われた。16カ国地域から約1600人の選手が参加して熱戦を繰り広げた末、鈴木さんは女子MVPに輝いた。

鈴木さんはW65・400m、800m、1500m、5000mの4種目に出場、4冠を成し遂げた。それぞれの記録は別掲の通りだが、鈴木さんは1998年の沖縄大会、2004年のバンコク大会でも4冠を達成しており、2012年の中華台北大会では何と5冠まで。おまけにここでも女子MVPを手中にした。

特に大連大会での熱い歓迎ぶりはすごかったと話す。ここまでマスターズ陸上にのめり込んだのは、長女と次女が若いころに陸上を始め、その練習に付き合ってからだ。さらに長女と次女が社会人になってから都道府県対抗女子駅伝の北海道代表に選ばれ、開催地の京都まで応援に出掛けたこともマス

ターズ陸上“好き”の理由だろう。

現在は鈴木さんはじめ、お子さんも走ることはしていないが、過去に輝かしい実績を残した足跡はマスターズ陸上のレジェンドにふさわしい。

田中博男さん(90歳・青森) 100m16秒86、200m36秒02 の世界新

青森の元気90歳カルテットがM90・4×400mRで8分49秒01の驚異的な世界記録を樹立したニュースは8月号でお知らせしたが、アンカーだった田中博男さん(90歳)＝青森市がリレーとは別に100m16秒86、200m36秒02の同クラスの世界新記録をマークした。

100mは5月1日、岩手県花巻市で開かれた岩手県トラック競技会花巻大会で行われ、田中さんは年齢がさまざまなスプリンターに交じってスタート。「スタートがうまくいかなかった」と言いながら、以後、懸命に走り、快記録に結び付けた。

M90・100mの世界記録はブラジルの選手が2007年に出した17秒53。田中さんは14年ぶりに更新した。なお、

日本記録は18秒08で21年ぶりの書き替えとなった。

同日、200mにも挑戦したが、38秒09と日本記録の40秒48を破ったにとどまった。世界記録は37秒16だった。再び田中さんが200mを走ったのが5月23日に六ヶ所村で4×400mRに世界記録を上回るレコードを出した会場でのこと。このときに36秒02の“快速”ぶりを発揮し、堂々の世界新を出した。

田中さんは「狙っていたことなのでうれしいです」と言葉を弾ませた。



M90・4×400mRの世界新記録について、マスターズ連合の事務局によると、この記録は世界マスターズ陸上競技協会が「ルールに従っていないので記録公認はできない」と言い、日本連合としても認めることはできない、とのこと。リレーに関してのルールには「リレーは2チーム以上が出場しなければならぬ」とある。

青森マスターズのカルテットは1チームのみでレースをした。青森カルテットの皆さん、気落ちせずにこれからもがんばって。

鈴木郁子さん成績一覧

世界マスターズ陸上競技選手権成績

(※印は日本新)

大会回数	場所/年	クラス	チーム名	種目	順位	記録
第10回	宮崎/1993	W55		マラソン	17位	4時間06分51秒
				400m	5位	1分23秒94
第16回	スペイン/2005	W65		800m	4位	3分14秒85
				1500m	8位	7分04秒15
				5000m	7位	25分35秒91
第18回	フィンランド/2009	W70		400m	4位	1分26秒33
				800m	3位	3分16秒19 ※
				1500m	3位	6分40秒62
				400m	3位	1分37秒75
第20回	ブラジル/2013	W75		800m	2位	3分38秒99
				1500m	2位	7分39秒30
				2000mSC	1位	12分28秒54
			日本	4×400mR(4走)	2位	7分47秒00
				400m	4位	1分43秒22
第21回	フランス/2015	W75		800m	7位	3分55秒80
				1500m	5位	7分56秒25
				2000mSC	1位	12分53秒55
			日本	4×400mR(2走)	1位	8分01秒69
				400m	6位	1分45秒75
				800m	2位	3分38秒99
第22回	オーストラリア/2016	W75		1500m	2位	7分39秒30
				2000mSC	1位	12分28秒54
			日本	4×400mR(4走)	2位	7分47秒00

マスターズ日本記録

(2019年10月1日現在)

場所/年	クラス	チーム名	種目	記録
女子 クアラルンプール/2010	W70		2000mSC	11分30秒84
女子 中華台北/2012	W75		2000mSC	11分48秒79
女子 北上/2014	W75	日本	4×100mR(2走)	1分16秒27

アジアマスターズ兼国際ゴールドマスターズ 両陸上競技選手権成績

大会回数	場所/年	クラス	チーム名	種目	順位	記録
第10回	沖縄/1998	W60		800m	1位	3分09秒45
				1500m	1位	6分13秒00
				5000m	1位	25分02秒98
				ハーフマラソン	1位	1時間55分22秒
第12回	大連/2002	W65		400m	1位	1分21秒82
				800m	1位	3分08秒20
				1500m	1位	6分25秒73
				5000m	1位	24分27秒07
第13回	バンコク/2004	W65		400m	1位	1分27秒11
				800m	1位	8分25秒93
				1500m	1位	6分57秒40
			日本	4×100mR	1位	1分09秒11
国際	和歌山/2007	W70		400m	1位	1分29秒81
ゴールド				800m	1位	3分21秒01
				1500m	2位	7分11秒01
第16回	クアラルンプール/2010	W70		2000mSC	1位	11分30秒84
			日本	4×100mR	1位	1分17秒54
				400m	1位	1分32秒05
第17回	台北/2012	W75		800m	1位	3分41秒93
(MVP)				1500m	1位	7分09秒49
				2000mSC	1位	11分48秒79
			日本	4×100mR	1位	1分17秒03
				400m	1位	1分39秒10
第18回	北上/2014	W75		2000mSC	1位	12分09秒52
			日本	4×100mR	1位	1分16秒27